

Photo Column

フォトコラム・自然観察



旅路の恋人たち

泉原 猛

「マヒワ」

秋、中国東北部やサハリンなどから大群で渡来する。主に山地で冬を過ごし、春また北国へ帰る。県内では春季、数千羽の群れが記録されたこともある。「チュイーン、チュイーン」と個々の声は小さいけれども、大群になれば、「チュクチュクジュインジュイン」と、森の中はにぎやかな別天地と化す。

色鮮やかな方がオス、地味なのがメス。北帰行の途中、このカップルは仲間から離れて束の間のデートを楽しんでいる。その「男らしさ」「女らしさ」は、自然界では深く明解である。そして渡りも恋愛も子育ても、体内ホルモンの生成によって、ごく自然に成立している。それは、色彩や音声など、ヒトでいえば「五感」に訴える要素から作られる。

ヒトの世界では、最近の行き過ぎた「性差の埋葬」が、繁殖能力の低下を招いているのではないか、と思わせるところがある。

いずはら・たけし 一九八五年東宇和郡土居村（現城川町）生まれ。環境省環境カウンセラー、県環境マイスター、文芸誌『原点』同人。昨秋、松山市立湯山小五年生三十六名とジョウビタキのオスを望遠鏡で観察。彼らの心底にその鮮やかな映像が生誕記憶されることを祈っている。

（写真は、一九八五年四月二十一日、北条市高縄山にて）

文化愛媛 No.50

¥ 500 (税込)

発行／平成15年(2003)3月21日

発行所／愛媛県松山市道後町2-5-1

財団法人愛媛県文化振興財団